

# FAMILY STORIES

## ○スパイグループ

- リヨウマ … 怪力の持ち主で戦闘特化タイプ。考える方は苦手。グループのリーダー格だが、無事に仕切れたことはない。
- ユヅキ … 作戦参謀。彼女がいないと何もまともならないが、目立って前には出てこない。実は二重スパイである。
- アイノ … 天才。ハッキング能力は世界一。だが、周りの人間関係には興味がないので、やることをやる。とりあえず天才。
- トアコ … 銃火器担当。味方を気にせずぶっ放したいので、一人でやりたいタイプ。お金が好き。
- ハルト … キャラのゆるさで適当に潜り込む、潜入のスペシャリスト。なぜ彼が成功するのか、誰にも分からない。ケンカは嫌い。
- ユウト … 科学の専門家。面倒くさい何かを作ったり、調査したり、とにかく面倒くさい担当。気晴らしに爆弾を作っている。

## ○ドルチェ・ファミリ

- ヒナタ … 組織のボス。お金持ちの御令嬢。ただの美しいケーキ好きと見せかけて、実は怖い。意外と真面目なことを考えている。
- ライラ … ファミリーNo.2。スラムで死にかけていたところを、ボスに助けられた。ボスの世界を変える夢を信じている。
- アリ … ファミリーNo.3。ライラの妹。普段のボスにはイラッとしていて、どちらかというところボスより兄を信じている。

## S1 スパイ組織のアジト（ボスの部屋）

その日、スパイ組織9Pのトップメンバー6人が、一同に介していた。

- リヨウマ … 我々は、国際スパイ組織9P（キュウピー）。どの国にも属さず、国際的な戦争回避からご近所さんの犬の散歩まで、あらゆる依頼をこなすスペシャリスト集団だ。
- ユウト … マヨネーズは関係ない。
- ハルト … 依頼の成功率は…100%。つまり、我々に失敗はない。
- ユヅキ … 当社アンケート調査による顧客満足度でも驚異の99.9%を叩き出した、まさに世界最高のスパイ組織。
- アイノ … それが、我々9Pなのである。
- ユウト … キューピーじゃない。キュウピーだ。マヨネーズは関係ない。
- トアコ … そしてこの日、最高の実力を持つトップメンバー6人が、アジトに集められたのである。

6人の前に、謎のボスが現れる。

- 謎のボス … 諸君、今日集まってもらったのは他でもない。先日、某国のエージェントより緊急連絡が入った。世界を揺るがす超すげーやべー計画が、我が国内において進行している。このままでは世界中が超すげーやべーことになりかねない。断固阻止して欲しいとのことだ。
- ハルト … 超すげーやべーこと…。
- アイノ … いったい何が起るんです!?

謎のボス 第三次世界大戦！

スパイたち え！？

謎のボス 妖怪大戦争！

スパイたち ええっ！？

謎のボス 核戦争の上、ゴジラ復活！

スパイたち 超すげーやべー！…。

謎のボス もちろんこれは、現段階における緻密なシミュレーションに基づく予想に過ぎない。残念ながら、彼は全てを語る前に連絡を絶った。残された僅かな資料をもとに、この計画の全貌を掴むのが、今回の君たちのミッションだ。

リヨウマ 任せてください。

トアコ いつも通り、こなしたらいいんでしょ。

ユウト それで、今回はだれがその任務に？

謎のボス 今回は…君たち全員で任務に当たってもらう。

スパイたち 全員！？

全員の、間の抜けた叫びが響く。

先程までの緊張感はどこへやら、

ハルト 全員って、この6人全員で、ですか？

謎のボス そうだ。

スパイたち それはどうかなあ…。

ハルト いやあ、ボス、合わないと思いますよ。俺たち。

アイノ うんうん、無理だね。

トアコ 能力があるのは知ってるけど、どうもキャラがねえ…。

ユウト うわあ、人のこと言えない人が人のこと言ってる…。

トアコ、ユウトに銃を向ける。

ユウト だあつ！？ 危ないですよ！

謎のボス これはすでに決定されたことだ。諸君らの速やかな遂行を望む。以上。

スパイたちの反論を許さず、ボスは映像を切った。

## S 2 スパイ組織のアジト（広間）

ボスのいなくなったアジト。

アイノはすぐにパソコンに向かい、リヨウマとユヅキは準備を開始しようとする。  
が、他の三人は…

トア・ハル・ユウ さーいてー…。

トアコは「あり得ない」というように、首を振りながら、

トアコ え、まじで？ まじでいつしよにやんの？ こいつらと？

ユウト なんていうか、効率的じゃないんですよね。いや、別に指令ですから、いいんですけど、もうちよつといいやり方があるっていうか…。

リヨウマ ごちやごちや言うな。命令なんだ。やるしかないだろ。

トアコ へえ、意外にいい子なんだ。腕力バカのくせに。

リヨウマ バカとはなんだ、バカとは。

「FAMILY STORIES」

トアコ あれー？ ごめーん、気に障った？ 分かりきったこと言っただけだったんだけど。

リヨウマ なんだと？

ハルト ちよつとちよつと、仲間内でケンカはやめようよ。

ユウト ケンカというよりですね、この場合、当然起こるべき相性の問題と言いますか…。

ハルト うん、それも分かるんだけど…。

トアコ じゃ、あんたはこいつらと組んでやりたいの？ それとも一人で自由にやりたい？

ハルト いやそれは…。

トアコ つたく、ハッキリしないわね。

ユウト どちらの方が、よりミッションの成功率が上がるかってこと、よく考えて判断した方がいいと思いますよ。

ハルト、一瞬考えて、スッと反対派の方に寄る。

リヨウマ おい！

ハルト いやあ、だって、もうすでに崩壊してるし…

トアコ・ユウト ねえ。だってほら…。(ごちゃごちゃ)

反対派の三人は、ごちゃごちゃと文句を言い出した。

リヨウマ とにかく！ これがイレギュラーなのは、俺だって分かる。でも俺たちはプロだ。チームでやれと言われたら、チームでやる。まして今回は、俺たち史上最大のミッションだ。勝手な判断は慎むべきだ。

ビシツと言いつつたリヨウマに、しかしトアコは白い目を向ける。

トアコ 正論って嫌い。

ガックリするリヨウマ。

と、それまで冷静に事態を見ていたユヅキが、ポツリと言う。

ユヅキ 情報収集のプロ…。

みんな ……？

科学的アプローチ、潜入、銃と格闘のスペシャリスト…結構バランスよく集まってるよね。短時間で超すげーやべーことに対処するなら、チームでやった方が、それぞれ楽できると思うけど。それに、長い時間顔つき合わせる方が疲れるから、さつさとやってさつさと終わらせた方が良くない？

その言葉に、ハルトとユウトは顔を見合わせる。

ユウト それはまあ…論理的です。

ハルト やっぱこつちな。

二人は、スッと賛成派の方へ移動する。

トアコ あんたら、コンビ組んでたんだっけ。

リヨウマ 何回か、な。

トアコ まじめコンビね。そんなに息が合うなら、あんたら二人でやったら？

あくまで冷めた言い方をするトアコに、リヨウマはちよつとムツとする。  
しかし、ユヅキは冷静に、

「FAMILY STORYs」

ユヅキ あとは、そう…この史上最大のミッション、史上最速で解決したら、めっちゃ評価上がるよね。

トアコ (ヒクッ)

ユヅキ 世界一のスパイだって超有名になるだろうし、当然ボーナスもジャラジャラ、ジャラジャラ、すごい金額に…。

トアコ やりましょう。

ハルト・ユウト えー!?

トアコ 何言ってるの。世界の危機よ。当たり前でしょ。グズグズしない!

トアコに促され、バタバタと円陣を組むスパイたち。

トアコ 私たちはチームよ。いつも心は一つ。ファイト!

スパイたち オー!

リヨウマ …まあ、いいか。

ここで気にしたら、面倒になるだけである。

ユヅキ アイノ。

ユヅキの言葉で、アイノは再びパソコンに向かう。

アイノ エージェントから送られてきた、数万件の資料をザッと調べてみました。

ハルト もう!?

アイノ 天才ですから。

スパイたち すげー!

アイノ ここ数ヶ月、国内で奇妙な事件がいくつも起こっています。人の性格が突然変わって、おかしい行動を取り始めるという事件です。例えばあるケーキ屋では、店主が数日間同じケーキばかりを焼き続け、それをどこかへ発送していました。

トアコ ケーキを発送?

ハルト 何それ?

ユウト 発送先は?

アイノ 存在しない住所だったようです。事件性が薄いため、だれかのイタズラということで片付けられました。似たような事件が何度も起こっています。

リヨウマ 全部ケーキ屋か?

アイノ だいたいケーキ屋ですが、時々和菓子が混ざります。

ユヅキ 飽きたんだね、きつと…。

ハルト すごいね、この短時間でこれを調べたの?

アイノ 天才ですから。

スパイたち おおー!

トアコ さすが、私のチーム。

思わずツツコミそうになるリヨウマだったが、その前にユヅキが資料を指差した。

ユヅキ ねえ、見て、これ!

みんな、資料を覗き込む。

ユヅキ おかしくなった日数。だんだん延びてる。最初は一日、次は三日、一週間…。  
ユウト つまり、これはテストですね。だんだん日数を伸ばして、どれだけ人間を支配できるか試

「FAMILY STORYs」

リヨウマ している…。  
何をどうやったかは分からないけど、もしこの実験が成功したら、  
トアコ すべてののキーキは、奴らの手の内に…。

ガガン…！

ユヅキ 黒幕は？

アイノ 過去の事件との関連性から見て、おそらくは彼らです。

アイノがパソコンを叩くと、三人の人物が映し出される。

リヨウマ コイツらは…？

ユヅキ ドルチェ・ファミリー。少数精鋭で、未だ正体のわからない謎の組織。

ユウト ただ一つ有名なのは、ボスが類似稀なるキーキ好きだということ。

ハルト 世界中で起こる甘いもの関係の事件には、大抵彼らが絡んでます。

スパイたち 絶対コイツらだ…。

トアコ あんた、こんな基本的な情報も知らないの？

リヨウマ うるせえ！

アイノ 残念ながら、彼らのネットワークに侵入することはできませんでした。

リヨウマ つまり、計画の全貌を知るには、直接出向くしかないってことだ。

そう言って、指を鳴らすリヨウマ。

力で解決する気満々である。

ユヅキ それじゃ、各々準備を整えて集まりましょう。

ユウト 決行はいつ？

ユヅキ 居場所が分かり次第。

アイノ 明日までに、突き止めておきます。

スパイたち おおー！

アイノ 天才ですから。

トアコ それじゃあんたたち、私のためにビシッと働くのよ。…作戦参謀、よろしくね。

ユヅキ はあ。

トアコ じゃ、解散！

トアコの号令で、スパイたちはバラバラに去っていく。

残ったのは、リヨウマとユヅキのコンビだ。

去ろうとするユヅキに、リヨウマが声をかけた。

リヨウマ ユヅキ。

ユヅキ ……？

リヨウマ その…ありがとうな、助かったよ。

ユヅキ 何が？

リヨウマ いや、さつき。ユヅキがうまくまとめてくれなかったら、バラバラのまんまだっただろ。

ユヅキ ああ…。

ユヅキは、なんてことない、と言うように肩をすくめる。

ユヅキ 別に、必要だからやっただけ。

リヨウマ まあ…そうだな。

ユヅキ うん。

リヨウマ でも…いつも助かる。

ユヅキ、リヨウマを励ますように叩いて、

ユヅキ 今時、根性論じゃ、人は動かないと思うよ。

リヨウマ だよな。

ユヅキ でも、いいんじゃない？ らしくて。だれか、そういう人がいないとき。利害だけで人は

動くわけじゃないと思うから。

リヨウマ ……。

ユヅキ 適材適所。でしょ？

リヨウマ ああ、そうだな。

リヨウマ、手を差し出す。

リヨウマ よろしくな。頼りにしてる。

ユヅキは、その手を見て、一瞬ためらった。が、すぐに笑顔を見せると、その手を握り返す。

ユヅキ よろしくね。

固い握手を交わす二人。

リヨウマ じゃ、明日な！

リヨウマは、笑顔で去っていく。

ユヅキ、いなくなったのを見計らって、

ユヅキ 痛あ…。あの馬鹿力…。

そして、小さくため息をついた。

ユヅキ ドルチェ・ファミリー…か。

意味深な言葉を残して、ユヅキは去っていく。

### S 3 ドルチェ・ファミリーのアジト (ボスの部屋)

一方、こちらはドルチェ・ファミリーのアジト。

美しく立つボスのところに、配下の2人がやって来る。

ライラ 失礼いたします、ボス。

アリ 定時報告に参りました。

ボス いいわ。始めて頂戴。

ボス、美しい。

ライラ

本日、マイクロチップの生産は完了いたしました。今はシステムの最終調整中です。これが済めば、いつでも計画を実行できます。

「FAMILY STORIES」

アリ  
すべて順調に進んでいます。まもなく、世界は変わります。  
ボス  
そう。

ボス、美しく遠くを見る。

ボス  
お前たち、よくやってくれたわ。(涙ながら) これまで…苦勞をかけたわね。  
ボス…!

ボス  
あと一歩…あとほんの少しで、私たちの夢が叶う…。お前の言う通り、今こそ世界は変わるのよ。

2人  
ははっ!

アリ  
一刻も早く、調整を完了させます。

ライラ  
では。

2人は頭を下げ、去ろうとする。

ボス  
ところで。

2人  
ゲ。

ボス  
今日のケーキは？

2人  
は？

ボス  
ケーキよ、ケーキ！ 今日のケーキは？

ライラ  
いえ、それは、その…

ボス  
ケーキ、ケーキ、ケーキ！

アリ  
ありません。

ボス  
(ショックの叫び) ケーッ!

ライラ  
おい、お前、ボスに向かって…

アリ  
言わなきゃしょうがないでしょ。どうせ止まらないんだから。

ボス  
なんで？ ねえ、なんでないの？

ライラ  
いや、ですからボス、あれはあくまでテストだったわけで…

ボス  
続ければいいじゃない、テスト。

アリ  
あんまりやって、バレたら意味がないでしょう。そうでなくても、某国のエージェントが、

嗅ぎ回ってたわけですし…。

ボス  
この前、ピーしちやっただけ？

2人、あわててボスの口を塞ぐ。

ライラ  
あんまり大きな声で言わないでください!

アリ  
今は計画の一番大事な時です。古来より、壁に耳ありジョージとメアリーと言います。慎重には慎重を重ねて…。

そんなこと言ったって、ピーしちやっただもんはピーしちやっただから、しょうがないじゃない。

とにかく! 計画遂行の暁には、ケーキなんか山ほど手に入りますから、

あ。

はい?

ボス  
ケーキ「なんか」って言った。ケーキ「なんか」って!

ライラ  
あの、ボス。

ボス  
あんたね、ケーキを笑うものは、ケーキに泣くんだからね。

アリはだんだん面倒くさくなって、ボスを適当になだめ始めた。

アリ  
はいはい、分かりました。それじゃ、あつちでチョコパイあげますからね。

「FAMILY STORYs」

ボス え、ほんと？  
アリ さ、お兄ちゃんのお仕事、邪魔しちゃいけませんよ。  
ボス はーい。

と、ボスは行きかけて…。

ボス あ、そうそう。  
アリ (ため息) まだ何か？  
ボス 木馬から連絡が入ったわ。  
2人 ……！

急に、ピリッと空気が引き締まる。

ボス どうも、ゴミ虫がここを探し当てたみたい。明日にもお出ましになるようよ。  
ライラ それは、確かな情報ですか？  
ボス 疑うの？

ボスの鋭い視線…！

ライラ いえ、すぐに移転の準備を。…おい。  
アリ はい。

2人は慌てて駆け出そうとする。

ボス あー、別にいいの。来させてやって。  
ライラ しかし。  
ボス 邪魔だったのよね。あいつら。そのトップが雁首揃えてくれるなら、ちょうどいいじゃない。まとめてピーしましょ。

ボスは、笑顔で二人を見ながら、

ボス ね？  
ライラ ……承知しました。  
ボス で、何だっけ？ ……あ、そうだ！ チョコパイだ！ チョコパイ、チョコパイ、箱で食べよ！  
アリ え！？ そんなたくさんは…。

しかし、ボスは行ってしまった。

アリ ……やつぱり、わかんないわ、あの人。  
ライラ あれで、やるときはやるからな。…えげつないくらい。  
アリ ピーがピーして、ピーだもんね。  
ライラ その上、ピーにピーだろ。  
アリ ピー過ぎてピーピーよ。

2人はまた、ボスの方を見て、ポツリと言う。

アリ ……変わるかな、これで。  
ライラ 変わるさ。何もかも。変わってくれなきゃ困る。  
アリ ……。



ライラ

俺たちに兄妹にとつちや、ボスが最後の希望なんだ。

こちらにも意味深な言葉を残して、2人はまた、仕事に向かう。

S 4

ドルチェ・ファミリーのアジト (入口)

ということ、スパイたちはアジトに辿り着いた。

少し離れたところから、慎重にアジトの様子を見ている。

リヨウマ

ということ、奴らのアジトにたどり着いたわけだ。

トアコ

じゃ、ぶっ壊す？

スパイたち いやいやいやいや。

スパイたち、慌ててトアコを止める。

ユヅキ

いい？ 狙うのは、見張りの交代直後。アイノが監視カメラの映像をすり替えるから、次の交代が来るまでに全部を終わらせなきゃいけない。

ハルト

時間は？

ユウト

およそ1時間です。

ユヅキ

それまでに、地下3階のコントロールルームにある端末に、このUSBを仕掛ける。そして後は、アイノがやつてくれるわ。

リヨウマ

来たぞ。見張りの交代だ。

トアコ

じゃ、ぶっ殺しましょ。

スパイたち いやいやいやいや。

スパイたち、慌ててトアコを止める。

ユウト

そんなことしたら、奴らと全面戦争ですよ！

トアコ

(不満げ) わかりやすくしていいじゃない。

ユヅキ

(華麗にスルー) できる？

ハルト

見張りの気を引くのはできるんだけどさ、でも俺、ほら、暴力は苦手だから、誰かが相手してくれると助かるんだけど、

ユヅキ

リヨウマ。

リヨウマ

任せろ。

ユヅキ

電子ロックの解除は。

ユウト

余裕です。

ユヅキ

中の様子は分からない。もし入って戦闘になった時は…。

トアコ

ぶっ殺していいのね！

ユヅキ

(うなずく) それじゃ、行動開始。

ハルトとリヨウマはごくフツの一般人を装って、見張りの方へと向かっていく。

ハルト

あのう…:すいません…!!

同時に、ユウトは密やかにロックの解除に向かう。

その様子を、遠くから見守っているスパイたち。

トアコ

わー、しゃべってる、しゃべってる。

ユヅキ

なんか仲良くなったね。

トアコ コミュカ〜！ …で、物陰に連れてつて…

リョウマが、見張りをボコボコにする音が響いてくる。

トアコ・ユヅキ あーあ…。

3人は、意気揚々と戻ってきた。

ハルト 一丁上がりつと。

交互にハイタッチする3人。

ユヅキ ロックは？

ユウト 開きました。

トアコ じゃ、行きましょう。

## S 5 ドルチェ・ファミリーのアジト (ボスの部屋)

一方アジト内部では、ボスが相変わらず美しく立っていた。そこに、報告にやつてくる、ライラとアリ。

ライラ

ボス。

ボス 来たわね。

アリ はい。

ボス いいわ。お手並み拝見といきましょう。

ライラ いえ、それが…。

ボス どうしたの？

アリ 奴ら、結構なお手並みでして。

ボス は？

ライラ サクサクとアジトの奥深くまでやつてきております。

怒涛の如く、アジト内部を進んでいく、スパイたちの姿が見える。

ユウト 次はどつちです？

ユヅキ 右奥、階段がある。

リョウマ 了解！

ハルト そつち、左！！！！

トアコ あああ、早く撃ちたい！

ユヅキ もうちよつと待って！

怒涛の如く、去っていくスパイたち。

ボス え！？ もう？？

ライラ どうやら、世界最高レベルというのは伊達ではないようでした。

ボス システムの調整は？

アリ もう少し時間がかかります。

ボス ああ、もう！ ちよつと見くびりすぎてたわね。

めずらしく、苛立ちをにじませるボス。

ライラ どうします？  
ボス 奴らの狙いはコントロールルーム。警備をそこに集めなさい。  
ライラ はっ。

ライラ、音もなく出ていく。いつものように。

ボス アリ。もしもの時は、データは全て破棄しなさい。  
アリ ……はい。  
ボス 木馬にもうひと働きしてもらいましょう。できれば、カードは握っておきたかったけど…  
仕方ないわね。

ボス、スマホを出すと、何かメッセージを送りながら去る。

## S 6      コントロールルーム

そしてスパイたちは、目的のコントロールルームにやってきた。  
リョウマ、迷わないようにハルトに引つ張られている。

リョウマ ここか、コントロールルームつてのは！

ユヅキ、USBをユウトに投げ渡す。

ユヅキ これを！  
ユウト 承知です！

ユウト、USBをなんかどっかにセットする。

ユヅキ (通信機に) アイノ、お願い。  
アイノ (基地からの通信) お任せください。

天才、動く。

トアコ じゃ、これで任務完了つてわけ？

ユウト アイノさんのハッキングが完了するまでは、油断できませんよ。

みんながちよつと、ほつとしたその時、ユヅキのスマホが鳴る。  
それをチラッと見た瞬間、ユヅキの顔がこわばる。

ユヅキ ……！

しかし考える暇もなく、部屋の外から警備が押し寄せる気配がする。

リョウマ ……来たぞ。敵だ。  
トアコ (もう限界) ねえ、今度こそ撃つていい？ 撃つていいの？  
ユヅキ ……。  
リョウマ おい、ユヅキ、どうした？  
ユヅキ あ、ごめん。(一瞬ためらいつつ) ……思いつきりやつちやつて！  
トアコ よっしやあああ！

警備とスパイたちの、戦闘が始まる。  
スローモーションで必死に戦う、スパイたち。

ハルト  
あと50%…！

スパイたちが必死に守る中、アイノのハッキングが進んでいく。

ハルト  
30%…

いろんなピンチや助け合いがある。たぶん。きつと。

ハルト  
10%…あと少し！

しかしピンチは乗り切った。勝利は目前である。

ボス  
そこまでよ。

だがその時、ファミリーの幹部が現れた。  
いつの間にか、ユヅキを人質にして。

## S7 続いて、コントロール・ルーム

人質を取られ、動きが止まるスパイたち。

リヨウマ  
ユヅキ…！

ライラ  
おっと、動くなよ。

アリの  
こいつの命が惜しかったら、そいつ（USB）をこっちによこしなさい。

突然の事態。そして指示役のユヅキを失い、スパイたちは混乱する。

ユウト  
え、ちよつと…どうします？

トアコ  
あたしに聞かないでよ！ 分かんないわよ、そんなの！

ライラ  
考えてる時間はないぞ。

アリの  
ハッキング終了までに渡さなかったら…

リヨウマ、迷うことなくUSBを抜き、ボスの方に投げる。

ユヅキ  
リヨウマ…。

アリの  
いい子ね。

こうなつては仕方ない。  
スパイたちは、持っていた武器も渡し、武装解除する。

ボス  
ん、久しぶりにヒヤヒヤしたわ。どうせヒヤヒヤするなら、冷たいスイーツでヒヤヒヤ

したいわよね。シャーベットやかき氷もいいけど、今日の気分は、ん、ん…アイスクーキーね。

ユウト  
アイスじゃダメよ。アイスクーキー。

ボス  
なるほど…お前がドルチェ・ファミリーのボスというわけだ。

ボス  
まあ、どうして分かったのかしら？

「FAMILY STORYs」

スパイたち ケーキが好きそうだから。  
ボス 私としたことが…!

ボス、ショック。

リヨウマ …さあ、もういいだろう。ユヅキを離せ！  
ボス そういえばそうね。いいわ。離してあげて。

ボスがそう言くと、2人はユヅキを離す。  
そして、親しげに声をかける。

ライラ

ご苦労だったな。

アリ

おかげで計画はギリギリセーフ。保険はかけておくものね。

その様子に、驚くスパイたち。

リヨウマ

ユヅキ…?

ユヅキ

……。

ユヅキは、目を合わせようとしな。

ハルト

え…どうということ…?

ユヅキ

……。

トアコ

あなた…裏切ったの?

ユウト

ちよつと待ってください。それじゃ、なんですか？ 俺たちをここに連れてきたのも、全部ワナだったってわけですか。

ユヅキ

……。

ユウト

…おい、なんとか言えよ!

動揺するスパイたちと、それを嘲笑うファミリーたち。

ライラ

裏切ったも何も、こいつは最初から、我らファミリーの一員だ。

ボスは、親しげにユヅキの肩を抱く。

ボス

そういうこと。ここまで、思い通りに動いてくれて、どうもありがとう。本当なら、この子の正体は明かさずに済ませたかったんだけど…。仕方ないわ。もう少しで計画がパーになるところだったもの。

ユヅキ

……。

お帰りなさい。長い間、大変な任務をよくこなしてくれたわ。どうもありがとう。あなたは私の誇りよ。

ユヅキ

…ありがとうございます。

その言葉で、スパイたちはハッキリ知った。

ユヅキは、二重スパイだったのである。

トアコ

やっぱりねえ…。

ユヅキ

……。

だから嫌だったのよ、こいつと組むのは。あんなに偉そうなこと言つといて、これだもん。どうもうまくいきすぎると思ってたんですよ。こんなに作戦通り行くわけないんです。

ハルト なんかもう、ガツカリだな。ガツカリですよ。最低だ。  
リヨウマ ユヅキ…。

ただ一人、信じ続けたいリヨウマ。  
しかし、ユヅキは目を合わせようとしなない、

ボス さて、と。それじゃどうしようかしらね。さっさと全員始末しても良いんだけど。

ボスの言葉に、スパイたちに緊張が走る。  
武器がなくとも、彼らは戦う術を持っている。

ライラ …どうやら、まだまだやる気のようにですが…。

ボス それも面倒なのよねえ。

ユヅキ ボス。

ボス なあに？

ユヅキ まだ一人、外に仲間がいます。ここで下手にやりあつて時間を使うより、計画の実行を急いだ方が…。

ボス ああ…天才の彼女ね。確かにあれは厄介だわ。どうせ計画が実行されたら、ここは破棄するつもりだったし、それまでどっかに放り込んでおきなさい。…行くわよ。  
3人 はっ。

後のことを手下（どこかにいる）に任せ、去ろうとする幹部たち。

ユウト おい、待て！

そう言われたら、足を止めるのは悪役の務めである。

ハルト お前たちの計画とはいったい何だ。怪しげなチップで人を操って、何を企んでる！

アリ なんだ、そんなことも分かってなかったの？ それで世界一とか、笑わせるわね。

ハルト・ユウト 何!?

幹部たちは、嘲笑いながら去ろうとする。

トアコ …いいえ、私は気づいてたわ。事件の資料を見た時、すぐにね。

ボス (足を止め)へえ…? いったいなんなのかしら。私たちの計画って。

トアコ あなたたちの恐るべき計画…そのチップで思うがままに人を操り、お前たちが手にするもの、それは…

その場に、緊張が走る。

トアコ 世界中のキーキの買い占めでしよう! どう!?

ガツクリ。

ライラ 何を言ってるんだ、そんなわけ…

ボス なぜ分かったの!?

アリ ボス!!

ボス そこまで計画が筒抜けだったなんて…!

崩れ落ちる、ボス。

「FAMILY STORYs」

ライラ　ボス、落ち着いてください。違います！  
ボス　え！？  
アリ　そうよ。バカなことを言わないで。ドルチェ・ファミリーと言っても、そこまでケーキが好きなのは、ボスだけよ！

ボス、ショック…！

ボス　知らなかった…。だって、だって…ケーキは人類全ての希望よ！　そうでしょう！？  
スパイたち　さあ…？

しらけるスパイたち。その中でただ一人…。

ハルト　あー…僕はちよつと、分かります。…いや、なんでもありません。

気を取り直して、

リヨウマ　だったらお前たちの目的とはなんだ。  
ボス　知れたことよ。世界をね、変えるのよ。  
リヨウマ　世界を…変える？

ハードなBGM

ライラ　7億6千万…。何の数字か分かるか？　この世界で、ろくに食うものもなく、死に瀕している人間の数だ。

アリ　水、食料、家、衛生施設、教育、情報…何もない。その日一日を生きることさえままならない。そんな人たち…。

ライラ　俺たちは、そこで生まれた。

アリ　私たちは、必死で這い上がろうとした。でもお前たちはどうした？　私たちが憐れむような顔をしながら、蔑み、あざ笑い、社会の闇へと追いやった。まるで私たちなど存在しない

ライラ　かのように振る舞い、見捨ててきたのよ。でしょ？  
だが、ボスは救ってくれたんだ、オレたち兄妹を。あの暗闇の中から。

リヨウマ、「お前もそうか？」と聞くように、ユヅキを見る。  
ユヅキ、答えない。

アリ　だから、世界を変えるのよ。このシステムで世界の要人たちを操り、世界の闇に光を当てる。

ライラ　それを止める必要がどこにある？

ユウト　…だからって、こんなやり方許されるわけがないだろう！

アリ　だったらそれ以外のやり方で、世界が変わった試しがあるの？

ユウト　それは…。

アリ　これは革命なの。世界をより良くするための革命。邪魔しないでちょうだい。

トアコ、やつと納得した、と言うように、大きくうなづく。

トアコ　そういうこと…。やつと分かったわ。あなたがケーキにこだわる理由…。あなたたちに

ライラ　あ、いや、あれはただのスイーツ好きだ。  
は、決して手が届かない存在だったから…だからあんなに…**バカ**みたい…。

スパイたちは…？

アリ 地なのよ、あれ。昔っからずつとあれ。  
ボス (キメ) パンがなければ、ケーキを食べればいいじゃない？  
スパイたち うわあ…引くわー。  
ボス だってえ、うち、財閥だもん。ご令嬢だもん。ケーキなんて昔っから食べ放題よ。  
トアコ じゃ、なんでこんなことやってんのよ！

ボス、笑う。  
言葉は軽いが、マジだ。

ボス あら、だってお金がなくちゃ、何もできないでしょ？ 口先だけの理想なんて虚しいものよ。スイーツは世界を救う。でも、それは全ての人に届かなければ意味がない。全ての人に幸福を。それが私たち、ドルチェ・ファミリーの使命なの。

スパイたち ……。  
ライラ ボスに逆らう人間はだれであろうと許さない。  
アリ もちろん、計画を邪魔する者もね。

またしても、去っていくこうとする幹部たち。

リヨウマ ユヅキ！  
ボス やめなさい。人の苦しみを、他人が理解するのは不可能なの。あなたが理想を語るのは勝手だけど…同じように、こっちにも勝手があるのよ。  
リヨウマ ……。  
(ささやく) あの子をこれ以上苦しめたくないなら、おとなしくしていることね。

リヨウマ、最後の頼みと、ユヅキを見る。

ユヅキ ごめんね。

どこだかなんだか分からないが、スパイたちが閉じ込められた音が響いた。

## S 8 牢屋的などこか

スパイたちは、閉じ込められている。  
そして、とことん萎えている。

トアコ なーんか…ねえ。  
ユウト ええ…。  
ハルト ムカつく？  
トアコ 違う。  
ハルト 落ち込んでる。  
ユウト 違います。  
ハルト ごちゃごちゃしてる。  
トアコ 近い。  
ハルト モヤモヤする。  
トアコ・ユウト それ。  
ハルト よし！(当たった)  
トアコ なんて言うのかな、これ。なんかこう、モヤモヤっていうか、グチャグチャっていうか、ブニャっていうか…。  
ユウト いわゆる、アンビバレントな感情ですね。



「FAMILY STORIES」

トアコ、ユウトを叩く。  
こういう時に、女性に冷静な意見はいらぬ。

ユウト 何するんですか！

トアコ なんかムカついたのよ。

ユウト えー…。

トアコ あーもう！ズバーつと論破して、ダダダーツつと撃ち殺して、さっさと終わりにしたい。  
短気は良くないですよ、短気は。

3人の、深いため息…

ユウト しかしまさか、組織のトップに裏切り者がいるとは思いませんでしたよ。

トアコ ほんと、ほんと。

リヨウマ ……。

ユウト ほんとに気づいてなかったんですか？ よくコンビ組んでたんでしょ？

トアコ まさか、この後に及んであんたもどつかのスパイとか言わないでしょうね？

ハルト ちよ、ちよつと…。

リヨウマ (あまり聞いてない)…あいつは、仲間を裏切るようなやつじゃない。これには何か、訳がある。

ユウト 訳もなにも、最初からファミリーの一人だった、つて言ってたじゃないですか。  
トアコ 仲間だと思つてたのは、あんただけよ。

トアコをにらむリヨウマ。

トアコ …なによ。

ハルト ちよつと、やめてください。

ハルトが割つて入つて、とりあえずその場を収めた。

ユウト …でもどうしますかね。このままじゃ、初の任務失敗どころか、全滅ですよ…。

全員、ため息。

その時、室内のスピーカーから、突然アイノの声が聞こえてくる。

アイノ あーあー、マイクテスト、マイクテスト。本日は晴天なり。本日は晴天なり。

スパイたち アイノ!?

アイノ 遅くなってすみません。USBを抜かれてしまったので手間取りましたが、ようやくシステムに侵入しました。

スパイたち おおー!

アイノ ということで、今、そこを開けます。脱出してください。

アイノの遠隔操作で、部屋のドアが開く。天才だから。

トアコ つしゃあ！今度こそ、奴らをボコボコの穴だらけにしてやるわ！

ユウト (バカにしたため息)これだから…。今から行つたつて間に合いませんよ。システムはアイノに任せて、僕らは脱出すべきです。

トアコ 何よ、尻尾巻いて逃げようつての？  
戦略的撤退です。

トアコ なにが違うのよ。

ハルト　でもほら、ここは破棄するって言ってたし、早めに逃げた方が…  
トアコ　だからその前に片付けるんですよ。  
アイノ　あの、  
トアコ　なによ。  
アイノ　みなさん助けるのに疲れたので、休みます。あとお願いします。  
スパイたち　おーい！

通信が切れ、静まり返る室内。

ハルト　とりあえず、計画は分かっただから、報告に戻りましょうよ。その後のことは、その後のことつてことで…。

ユウト　懸命な判断です。

トアコ　しょうがないわね…。

…と、行きかけたが、

トアコ　腕力バカ。なにしてんの。行くわよ。

一人、リヨウマは動こうとしなかった。

リヨウマ　…俺は残る。

トアコ　は？

リヨウマ　残つて…ユヅキを助けに行く。

トアコ　あんた、なに言ってるの？

ユウト　助けるつて…。あいつはドルチェの仲間ですよ。

ハルト　あの、うん、なんか無理しない方が…。

3人の言葉に、リヨウマは首を振る。

リヨウマ　俺は…やっぱり信じられないんだ。あいつが俺たちを裏切るなんて…。

3人　…。

リヨウマ　たしかに、あいつらの言ってることは、間違つてない。この世界には、苦しんでいる人たちがたくさんいるし、だから世界は変わらなきゃいけないのかもしれない。でも、それでも…俺はあいつらを認めない。

嫌なんだよ。俺はバカだから、言い返す言葉なんか分からないけど、でもこれだけは言える。俺は、あいつらのやり方は嫌いだ。七十億の人間の命運を、ほんの一握りの人間に預けていいはずがないんだ。

だって、人は違うんだから。みんな全然、違うんだから。誰かの価値を、誰かに預けることなんてできない。

3人　…。

リヨウマ　あいつはさ、それがわからないほどバカじゃないと思うんだよ。こんなこと、おかしいつて分かっている。あいつは、自分が間違つてると思つてるとは絶対にしない奴だから…。

3人　…。

リヨウマ　俺は、それをずっと横で見してきた。だから分かるんだ。俺があいつを信じるには、それだけで十分だ。

そこまで言つて、リヨウマは仲間を見回した。

リヨウマ　でもこれは、俺のワガママだ。だから、お前らは行つてくれ。

「FAMILY STORYs」

沈黙のひと時：  
やがてハルトが、その沈黙に耐えかねたように、

ハルト しょうがないなあ…もう…。

リヨウマ ……？

ハルト いいよ、行くよ。お前一人じゃ、右に行つていいのか、左に行つていいのかも分からないだろ。誰かがフォローしなきゃ、しょうがないじゃねえか。

リヨウマ ハルト…。

ハルト (実は怖い) その代わりに、絶対俺を守れよ。絶対だぞ。  
リヨウマ ああ。

男の友情。

ユウト え、ちよつ…本気ですか？

トアコ (考える) ん…？ てことは何？ つまり、こつちについてった方が暴れられるってわけ？

ユウト なーんだ、そつか、そういうこと。じゃ、そうしよう。

トアコ 本気ですか！？

ハルト (聞いてない) フッフッフフ…あいつら見てらっしやい…。

ユウト ……やつぱりこいつは帰した方が…。

ハルト 何なんですか、もう…。冷静なのは僕だけじゃないですか！

ハルト で、どうすんだ？

ハルトたち、なーんか言いたげにユウトを見る。THE 同調圧力。

ユウト、とうとう諦めて、

ユウト ああつ！ もう！ 分かりましたよ。行けばいいんでしょう、行けば！

トアコ 別に無理に付き合う必要はないんだけど？

ユウト バカですか？ ここで一人だけ戻る方が非効率的だし、能力の無駄遣いです。さつさと

やつて、さつさと片付けましょう。

リヨウマ、みんなに向かって頭を下げる。

リヨウマ すまない、みんな…。

そこに、またアイノの声が聞こえてくる。

アイノ あー、あー、すいません。もう一つだけ、お伝えします。

スパイたち アイノ！

アイノ 休憩ついでに、ドルチェ・ファミリーの経歴を調べました。ユツキさんはファミリーの一人じゃありませんね。これまでの事件にも、関わっていた形跡はありませんでした。

スパイたち え！？

リヨウマ だつたらどうして…。

アイノ ただ…古い資料の中に、一枚の写真を発見しました。ユツキさんが協力しているのは、たぶん、これが理由かと…。

アイノからどこかの何かに送られてきたデータを見る、スパイたち。

リヨウマ これは…。

アイノ リヨウマさん。あなたが彼女を信じなければ、私もこの写真を見つけられなかったでしょう。大切な2つのものに挟まれて、恐らく彼女は今、苦しんでいるはずです。奴らの計画

リヨウマ は、私が何とかします。皆さんは、ユヅキさんを助けてあげてください。  
：分かった。

アイノからの通信が切れた。  
彼女は今、計画の阻止のために、戦っている。

ハルト で、どうする？

ユウト (投げやり) 時間もありませんから、あれこれ考えるより、行動しましょう。

ユウトはどこからともなく、何やら怪しげな物体を取り出した。

トアコ なにそれ？

ユウト 爆弾です。

スパイたち 爆弾!?

ユウト むしゃくしゃすると作るんですよ。溜まった鬱憤、全部晴らさせてもらいます。行きますよ!

仲間の返事を待たずに、ユウトは爆弾をぶん投げた。

## S9

### 心の風景

本当なら、激しい戦いが起こっているであろう時。  
全員が、心と心で向き合っている。

ボス なぜ、邪魔をするの？

リヨウマ あんたの理想は間違っていないよ。そのやり方は気に入らないが、もしかしたら本当は必要なことなのかもしれない。

ボス だったらなぜ？

リヨウマ ただ俺は、仲間を返してもらいたいだけだ。

ボス 仲間。

ボス、笑う。

ボス ユヅキは私たちの家族よ。勘違いしないで。

しかし、その言葉に首を振り、リヨウマはユヅキを見据えた。

リヨウマ ユヅキ。

ユヅキ ……。

リヨウマ 写真を見たよ。スラムの街角の…小さなケーキ屋で、君たちファミリーが笑っている写真。え…。

リヨウマ 君らは戦ったんだ。正しい方法で。

ハルト でも、叶わなかった。

トアコ そしてきつと何かすごく色々複雑なことがあって、スパイと世界革命を目指す組織になつたわけだけど、それは今は触れないでおくわ。

ユウト 僕らには荷が重すぎます。

リヨウマ でも君は、その絆を捨てることはできなかった。だからそのやり方に疑問を感じても、協力することを選んだ。

トアコ 彼らが家族だったから。

ユウト きつととても…大切な存在だったから。

そう、ユヅキにとってドルチェ・ファミリーは、家族だったのである。

ハルト でも、俺たちが目指す理想は、きつと何も変わらないはずなんだ。

トアコ 国際的な戦争回避からご近所さんの犬の散歩まで、全ての人に幸せをもたらす。

ユウト その力が、ユヅキ、君にはある。君だけじゃない、みんなに。

リヨウマ 戻ってこいとは言わない。ただ、後悔のないように歩いて欲しい。作られた幸福の中で生きるのか、それとも、自分の足で人生を歩むのか。

ユヅキ ……

リヨウマ 選ぶんだ。

ユヅキはちよつと考えて…やがてボスを振り返った。

ユヅキ 私はね、みんなが好きだよ。たとえ血のつながりはなくても、同じ夢さえあれば、私たちは

家族になった。あの頃の私には、みんなが全てだった。

ボス ユヅキ…

でもね、今、私には、新しい仲間がいるんだ。ちよつと変わってて、協調性がなくて、顔合わせれば問題ばっかりだし、私いないと何もできないし、正直困らせられてばかりだぜ…。

ユヅキ、だんだん自信がなくなってくる…。

ユヅキ だけど…。

ボス ……

リヨウマ、ツッコむ。

リヨウマ ユヅキ、迷うな！

ユヅキ ……あ！ ごめん！ …でも、これが今の私の家族。あそこが私の家。だから…。

ボス ……

ユヅキ ごめんね。

ボスは、今までにないくらい、優しい笑顔で…

ボス そっか。…じゃあ、しょうがないね。

ライラ ボス…。

アリ ボス…！

ボスは、ユヅキを愛おしむように、触れる。

ボス いつの間にか、大人になって。もう、私のユヅキじゃないのね。

ユヅキ、笑う。

ユヅキ ヒナタは、もう少しオトナになって。

ボス えー、それはどうかなあー。

二人、笑い合う。

ボス いい家族を見つけたわね。過去は忘れて、あなたの人生を生きなさい。

その時、アイノの冷静な声が響く。

アイノ 管理システムのハッキングに成功しました。マイクロチップを全て、無効化します。

## S10 またしても、コントロール・ルーム

静寂――

それは、計画の終焉を意味していた。

ボス 終わりね…。

ライラ ボス…。

ボス また一から始めましょう。新しい世界のために。新しいやり方で、ね。  
アリ はい…。

ボスは寂しくユヅキを振り返る。

ボス …それじゃ。

そして、去っていくとする。

物語の終わり…と思いきや、そのボスに、トアコは冷静に銃を向けた。

トアコ え、ちよつと待つて。なにいい話でまとめて、サラッと帰ろうとしてんの？

ボス え？

トアコ ダメでしょ。ここまでやらかして、失敗したからって逃げられると思ったら大間違いよ。あたしはね、あんたらとつ捕まえてポーナスもらうのよ！

一瞬で、戦闘態勢に戻る、両者。

ボス ええい、しくじったわ！ お前たち、ここからは全面戦争よ！

ライラ・アリ はっ！

ボス やーつておしまい！

いざ、戦闘開始…！

という時、ユヅキがあらぬ方を向いて、

ユヅキ あーっ！

スパイたち ええ？

思わず気を取られる、スパイたち。

ボス ナイス、ユヅキ！ 今よ！

幹部たちは、あっさりと逃げていく。

スパイたち あー！

トアコ ちよつとあんた！ また裏切ったの？

ユヅキ ちよつとだけね、ハンデあげたの。

トアコ ハンデ??

途端、キリッとした声で指示を出し始めるユヅキ。  
それは、作戦参謀の復活である。

ユヅキ アイノ、奴らの位置をチェックして、アジト内のどこかの出口に誘導。  
アイノ はい!

ユヅキ ハルト、ユウトはそこに先回り。トアコ、リヨウマ。好きに暴れて。  
リヨウマ 言われなくても!

トアコ あーもう! 全員ぶち殺してやるから!

ユヅキ それじゃ、作戦スタート!

スパイたち オー!

スパイたち、意気揚々と駆け出していく。  
なんだかんだ言いながらも、その姿は楽しそうである。

リヨウマ (行きかけて、戻ってくる) あー…ユヅキ。

ユヅキ なに?

リヨウマ いや…。

リヨウマは何か言おうとするが、結局その言葉を飲み込んで…いつぞやのように手を差し出す。

リヨウマ …おかえり。

ユヅキ ただいま。

その手を取り、固く握手を交わす二人。  
そして、二人は笑う。

リヨウマ 頼りにしてる。

ユヅキ 私がないと、何にもできないもんね。

リヨウマ (笑って) ああ、その通りだ。これからも、頼むな!

リヨウマはそう言って、仲間の後を追っていく。

ユヅキ、いなくなったのを見計らって、

ユヅキ 痛あ…。あの馬鹿力…。

痛そうに手を振りながらも、優しい笑顔で後を見送るユヅキ。  
今度こそ、素敵な物語の終わり…と思いきや。

ユヅキは再び顔を引き締めると、スマホを出してどこかに連絡を取った。

ユヅキ …ええ、ボス。計画通りです。これでドルチェ・ファミリーの管理システムは我々の手の内に入りました。9Pを落とすのも時間の問題でしょう。…ええ、慎重にコトを進めます。全ては世界を幸福に導くため…。…では。

電話を切ったユヅキ、不敵に笑う。